

実りある学舎を開催しました！ ～中国地方における波浪観測の現状と課題～

中国地方は、瀬戸内海側と日本海側とで、自然条件、社会・経済条件が大きく異なります。瀬戸内海側は、比較的静穏な海域であることから、化学・鉄鋼など多くの企業立地により我が国有数のコンビナートを形成しています。また、瀬戸内海には、100余りの有人島があるので、海上交通が生活航路として重要な役割を果たしています。他方、瀬戸内海沿岸は、台風による高潮・高波による被災を受けることもあります。日本海側は、日本海特有の冬季風浪が厳しいため、やはり災害に強い社会基盤施設の整備が求められています。

中国地方整備局では、鳥取港などで波浪観測等を行っており、港湾施設等の設計・施工の高度化に活用しております。近年は、地球温暖化等により巨大な台風が来襲するなど、これまでに経験していない異常な気象・海象現象の発生が見られます。同時に、南海トラフの巨大地震による津波対策も重要な課題となっております。

本講演では、早稲田大学 非常勤講師（株式会社エコー 常任顧問）永井紀彦 氏を講師にお迎えし、長年にわたる全国港湾海洋波浪情報網（ナウファス）の開発・改良・運用に取り組んで来られたご経験をもとに、気象変動に伴う波浪変化、最新の波浪観測技術、瀬戸内海や日本海の沿岸における波浪観測の現状と課題について、ご講演いただきました。



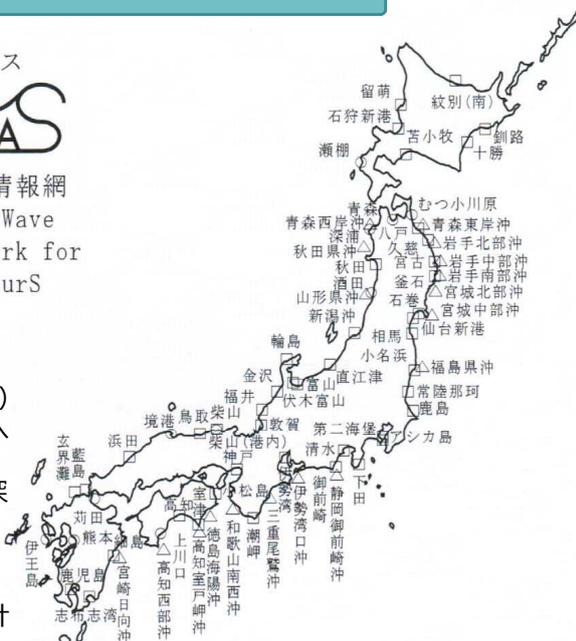
↑ 講師も含め、Teamsを用いての講演となりました

ナウファス（全国港湾海洋波浪情報網）



全国港湾海洋波浪情報網
Nationwide Ocean Wave
information network for
Ports and Harbours

- 全国78地点（GPS波浪計18地点含む）
- GPS波浪計の全国沿岸への展開中
- 沖合20km程度の大水深海域における波浪と洋上風の連続観測
- PARIにて総合管理解析
- 波浪観測年報と長期統計報刊行



2018年		計78地点
□: 海象計	継続観測地点	49地点
○: 海象計以外	継続観測地点	11地点
△: GPSブイ	継続観測地点	18地点

《日 時》
令和3年6月3日(木)
14:00～16:00

《テーマ》
中国地方における
波浪観測の現状と課題

《講 師》
早稲田大学 非常勤講師
(株式会社エコー 常任顧問)
永井 紀彦 氏



聴講者からは
「普段何気なく活用しているナウファスの発展の歴史に加え、波の理論、計測・解析手法の詳細を知ることができ、非常に有意義な時間だった」
「日本の海象条件に合わせた洋上風力発電の建設・運用技術の確立に、施工業者として携わって行きたい」などの感想が寄せられました。

